

司式 熊田雄二牧師
奏楽 堀口愛子姉妹

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 7:1 父の神よ夜は去りて

父の神よ夜は去りて 新たなる朝となりぬ
我らは今 御前に出でて 御名をあがむ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。主イエス・キリストの御名によって。

アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 7:23 万有の主よ

- 2 万有の主よ御顔仰ぐ僕らを強くなして あまつ国の尽きぬ恵みを得させたまえ
 - 3 三つにまして一人の神 御救いは尊きかな 御名の光照り輝きて世にあまねし アーメン
- 公 同 の 祈 禱 祈禱書5 使徒信条

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。／ われは、その独り子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。／ われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。

アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 川越キングスガーデン 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書10章17～24節 (新約聖書126頁)

説教・祈祷 「神・キリスト・キリスト者」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 48:1.2 主よ終わりまで

- 1 主よ終わりまで仕えまつらん みそば離れずおらせたまえ
世の闘いは激しくとも 御旗のもとにおらせたまえ
- 2 主よ、今ここに誓いを立て しもべとなりて仕えまつる
世にある限りこの心を 常に変わらずもたせたまえ アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 67 主イエスの恵みよ
主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ
ああ みさかえよ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤純一長老 (司会・受付 次週: 門脇陽子長老)

本日 受付 1階: 佐藤紀子執事 2階: 大日南信也執事 / 動画: 大日南悠兄弟 録音: 森川莞太兄弟
次週 受付 1階: 藤原宏章執事 2階: 古澤迪子執事 / 動画: 雨宮信長老 録音: 大日南信也執事

◎ 報告終了後、ZOOMのブレイクルームで、子どもプログラム番外編があります。

I 弟子たちの地位争いに72人加わる

福音書後半は、十字架に向かって行くイエス様の姿を描いています。前半は、嵐を静めて波の上を歩き、悪霊を追い出して病を癒し、わずかのパンで大勢を満腹させる、奇跡の王様を描いています。それに対し後半は、エルサレムで十字架にかかる苦難のしもべを描いています。

エルサレムに向かって行く途中、イエス様はキリストの受難予告を3回繰り返して言われました。それにもかかわらず、いやそれなのに、弟子たちにはキリストの真相がまだ分からないので、「天国で誰がいちばん偉いか」と論争が始まりました。「受難予告」のたびに論争はエスカレートしていきました。それは十二弟子たちの間で起きたのですが、今度はそれに72人が加わることになります。

72人は帰って来て言いました。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえも私たちに屈服します。」それに対してイエス様は言われました。18節「私は、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた」。確かに、あなたがたを派遣したとおりのことを見ていた。が、その権威はどこから来たのか。19節「蛇やサソリを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、私はあなたがたに授けた。」つまり、私があるあなたがたに授けたのだ。だから、悪霊さえもあなたがたに屈服することができたのだ。

「しかし」と20節で言われました。「悪霊があるあなたがたに服従するからといって、喜んではならない。」有頂天になって得意げに言うな。「むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」十二使徒の中には天に名が書き記されていない者がいた。裏切り者がいた。だから、「天国で誰がいちばん偉いか」という論争に加わるな。むしろ、「あなたの居場所」が天に用意されることを喜べ。

II 幼子のような者

「そのとき」と次の段落に続きます。21節「イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ。」」これは、お祈りですが、「祈られた」とは書かずに「言われた」と書いています。これは、同じ記事のマタイ福音書でも同じです。同じような祈りの長ーいのがヨハネ福音書の最後の晩餐での祈りですが、それも「言われた」と書いています。

語っておられるうちに祈りになるというのは、イエス様の場合よくあることのようにです。それが福音書の書き方です。パウロは「いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい、すべてのことについて感謝しなさい」と勧めましたが、絶えず祈るとはどういうことか、イエス様を見れば分かるわけです。日常言っていることと祈りの区別がないのです。言葉がいつも、父と子と聖霊の三位一体の神のまじわりの中にあります。そこで、「聖霊によって喜びにあふれて言われた」時は「父よ」という祈りになります。

では私たちは、どうしたら絶えず祈るようになれるのでしょうか。12人や72人の弟子たちは、「俺はできる」、「俺ならできる」と意気込んで言うでしょう。以前12弟子が「誰がいちばん偉いか」と議論した時、イエス様は幼子をそばに立たせて「あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である」と言われました(9：46-48)。

そこできょうの祈りの所では、こう言われました。21節「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした」

そこで、「どうしたら絶えず祈るようになれるか」という問いの答は、幼子のようなになることです。幼子のような者とは、「誰でも幼子のようにならなければ神の国に入れない」と言われた、あの「幼子」です。ごく小さな子どもです。赤ちゃんに近ければ近いほど、親に頼る以外何もできません。親を求めてアアアと言ったり泣いたりすることしかできません。ましてや、赤ちゃんはお祈りができません。しかし、救いの真理は、キリストに頼る以外何もできないことです。

ですからこれは、神をほめたたえる以外にありません。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした」。

72人の弟子を追加してイスラエル12部族に宣教した結果は、コラジン・ベトサイダ・カファルナウムら、イスラエルの町々が悔い改めなかったのです。それらの町に比べて、ティルス、シドンという異邦人の町の方がまだ軽い罰で済むと、イエス様は言われました。またイスラエル人の中でも悔い改めたのは、漁師・取税人・貧しい者・病人でした。総じて知恵者・賢者と言われる宗教的知識人は、ほとんど悔い改めなかったのです。

「どうしたら絶えず祈るようになれるか」。私たちは絶えず祈っていません。そんな自分は「どうしたら絶えず祈るようになれるのか」。答えはイエス様のそばに立つ幼子のようなになることです。もっと深い正解を神学用語で言うと、「キリストとの結合」です。キリストに結ばれていること以上の幸いはありません。

Ⅲ 見ているものを見る幸い

キリストに結ばれていること以上の幸いはありませんから、次に言われたことが大変ありがたいことになります。22節「すべてのことは、父から私に任せられています。父のほかに、子がどういう者であるかを知る者はなく、父がどういう方であるか知る者は、子と、子が示そうと思う者のほかに、だれもいません。」

キリストに特に任されているのは、「父がどういう方であるかを知る者」を起こすことです。そこで言われました。23節「それから、イエスは弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。「あなたがたの見ているものを見る目は幸いだ。」」。神を知ることこそ、道・真理・命であり、それは、ずばりイエス・キリストを知ることです。だから、イエス・キリストを目の前にしている弟子たちは幸いでした。

そこで、主イエスは言われます。24節「言っておくが、多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞いたかったが、聞けなかったのである。」多くの預言者たちは、キリストを預言しながらキリストを見ることはできませんでした。弟子たちはキリストを見たどころか、キリストの御業も見たのです。救い主と救いの御業を見たのです。

救いとは、キリストの十字架によって罪を赦されることですが、さらに、父なる神と子なる神キリストとのまじわりの中に入れられることです。さらに言えば、父と子と聖霊の三位一体の神のまじわりの中に入れられることです。これが永遠の命であり、永遠の愛のまじわりです。